様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　６ 月 ３０ 日現在

機関番号：３２６０５
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｈ０３８０１

研究課題名（和文）自国史を越えた歴史認識の共有をめざす日韓共通歴史教材の発展的研究

研究課題名（英文）Evolutionary Reseach of Common Teaching Materials for Japan and Republic of Korea: Aiming at Shared Historical Recognition beyond National Histories

研究代表者
田中　暁龍（TANAKA, Toshitatsu）

桜美林大学・資格・教職センター・教授

研究者番号：３０５１１８５２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、日本と韓国の歴史学・歴史教育研究にかかわる大学教員と高校教員などが、日韓歴史共通教材作成に共同して取り組んだ成果である。
　そして、平成28～30年度の3年間、全4回にわたる日韓国際シンポジウムを開催し、それらを通じて多様なテーマについて検討し、その過程で多数の日韓歴史共通教材を創案し、令和2年2月、その成果の一部をもとに編集作業を行い、『日韓歴史共通教材　調べ・考え・歩く　日韓交流の歴史』として明石書店より発刊した。
　本書が日本と韓国両国の歴史の授業を多彩に展開する触媒となり、日韓の高校生の相互理解をさらに深める上で役に立つ教材になるものと考えている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は、日本と韓国の高校教育の現場における教材活用を想定して、従来から課題とされた、より実践的な共通教材の開発を追求したもので、生徒の日常生活にかかわる文化事象を扱うほか、地域から相互理解を図る取組みを行った。そして、テーマに即して多様な「資料」を配置し、探究学習を案内する「問い」を設定した。
　平成30年の高等学校学習指導要領の改訂や高大接続改革において、新たに必修科目「歴史総合」が設置され、「問い」を立て探究的な活動を行うことが求められており、そのカリキュラムや教材等の開発や、歴史学習の新たな創造的な取組みとして、本研究が一助となるものと考えている。

研究成果の概要（英文）： The university teacher and the high school teacher who concerned Korean historical science and history education research cooperate with Common History Teaching Materials for Japan and Korea , and this research is the outcome on which we worked.
  And the international symposium of Japan and Korea from 2016 4 times per 3 years until year 2018 was held, various themes were considered through those and a lot of history common educational tools of Japan and the Republic of Korea were proposed by its process, and its part was edited as "The Common History Teaching Materials of Japan and Korea, Researching , Thinking ,Walking , The History of the exchange of Japan and the Republic of Korea" and it was published by Akashi Bookstore in February, 2020.
  I'm thinking this note will be deepening more high school student's mutual understanding of Japan and Korea.

研究分野：歴史学（日本近世史）、歴史教育

キーワード：歴史教育　日本史　韓国史　教材学　社会科教育　国際理解教育　教科教育学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1) 従来発刊されてきた歴史共通教材は、「歴史叙述」を通して共通の認識を探り出そうとするものであり、高校生にとって難解であるうえ、学校現場における歴史授業の組み替えには限界を持ち、その影響が授業での活用にまで及んでいるとは言い難い側面があった。

(2) 平成 25～27 年度 科学研究費補助金・基盤研究（B）（一般）課題番号 25285249「自国史を越えた歴史認識の共有をめざす日韓共通歴史教材の基礎的研究」は、日韓で共有しうる学習テーマを挙げ、歴史資料及び発問を立案し、それを協同で練りあげるスタイルを採用してきた。本研究は、この研究の成果を継承・発展させることから始まっている。

２．研究の目的

(1) 日韓の歴史研究・教育研究の成果を踏まえ、両国の歴史研究者と教育研究者、現場教師の共同作業により、両国の学校現場で活用することができる歴史共通教材を作成する。

(2) これまで両国間で作成されてきた共通歴史教材の多くがテキスト形式の「歴史叙述」であったため、実際の授業で活用するには難しい面があった。そこで、先史～現代を範囲とし、歴史資料と発問から構成される新たな教材の作成に取り組み、実践等を通じてその効果を検証する。

(3)高校生の歴史認識に直接的かつ総合的に働きかける教材を開発し、両国の歴史的葛藤を乗り越えるための具体的な素材を日韓の教育現場に提供することを目指す。その際、資料の活用や歴史の考察、思考力の育成や表現する学習などの教育的配慮を凝らす。

３．研究の方法

(1) 日本側と韓国側にそれぞれ国内研究組織を立ち上げ、各研究組織で予備的作業を進めながら、1 年に 1、2 回のペースで国際シンポジウムを開催し、議論を深める。そして授業実践を通じた検証作業を行い、教材の開発と相互検討・修正を具体的に進めるほか、授業実践による検証作業に取り組む。最終年次には、それまでの成果をもとに、日韓両国で同時刊行することを目指す。

(2)上記の共同研究を通じて、日韓双方に国内研究組織が構築されてきたことから、各時代を専門とする歴史研究者、歴史教育を専門とする教育研究者、高等学校教員から研究体制を組織し、その会務分担の体制で、共同研究を進めていく。

４．研究成果

(1)《平成 28 年度》

平成 28 年 6 月 11 日、日韓打ち合わせを行い（於 韓国・韓国学中央研究院）、今後 4 年間の全体計画と年度内の活動計画の確認を行った。これまでの第 1～5 回日韓国際シンポジウム（平成 25～27 年度）の成果を踏まえ（引用文献①②）、日韓共通歴史教材案の原稿送付と翻訳、編集、印刷と教材集の送付の流れや、教材案作成上の課題について検討した。

平成 28 年 8 月 12・13 日、第 6 回日韓国際シンポジウムが開催され（於 韓国・韓国学中央研究院）、これまでの「Ⅰ章 文化にふれる（を理解する）」、「Ⅱ章 歴史問題を考える」、「Ⅲ章 時代別テーマ（前近代・近現代）」、「Ⅳ章 日本と韓国を歩く」の 4 章構成を踏まえ、分科会と全体会を並行しながら教材案の検討を行った（引用文献③）。

平成 29 年１月 7・8 日、第 7 回日韓国際シンポジウムが開催され（於 北海道教育大学 札幌駅前サテライト）、新しく作成された教材案を中心に検討を行った（引用文献④）。その際、各教材案の合意事項・修正要求を明らかにするとともに、計 43 項目にわたる教材案を作成した。教材案全体の構成や分量、書式などの点で、日韓間で意見の相違がみられることから、次年度前半には、教材作成上の共通認識を図るための代表者会議を開くことを確認し、シンポジウムは平成 30 年１月に行うこととし、次年度以降は年１回の開催とした。

(2) 《平成 29 年度》

平成 29 年 5 月 13 日、日韓代表者会議が開催され（於 韓国・奨忠高等学校）、今後の全体計画と活動計画の確認を行い、教材作成上の共通認識の形成のための討議を行った。そこでは、教材案についての認識の相違や構成について検討を行い、日韓共通歴史教材案の原稿送付と翻訳、編集、そして印刷と教材集の送付の流れや、教材案作成上の課題については時間をかけて検討した。

平成 30 年１月 6・7 日、第８回日韓国際シンポジウム（於 韓国・釜慶大学校。8 日に巨済島フィールドワークを実施）が開催され、新しい教材案を中心に検討を行う一方、教材の構成案の協議に多くの時間をかけた（引用文献⑤）。教材案の構成（「タイトル→リード文→問い→資料」）や資料にかかわる問いの質（「事実確認の発問」「因果関係や影響など関係を考える発問」「価値判断を含んだ発問」等）と意図（日本向け・韓国向けを併記しても良いかなど）のほか、「教材解説」の内容や構成（問いや資料の意図）等については、今後の検討課題となった。

(3)《平成 30 年度》

平成 30 年 9 月 30 日、日韓打合わせを開催し（於 韓国・韓国学中央研究院）、前年度の研究成果と課題を踏まえて、本年度の全体計画と活動計画の確認を行い、前年度における課題とされた、教材作成上の共通認識形成のための討議を行った。

平成 31 年 1 月 5・6 日、第 9 回日韓国際シンポジウムを開催し（沖縄・沖縄県青年会館、7 日に沖縄中南部フィールドワークを実施）、そこでは時代別も含めて全体会をもって討議が行われ、各教材案の論点を中心に検討を行った（引用文献⑥）。

当初、日本と韓国と同時出版を目指してきたが、韓国における出版が難しいとのことから、第 9 回日韓国際シンポジウムにおける日韓共通歴史教材の最終版の一部をもとに原稿執筆を行い、日本のみで出版を行うことにした。このため基本的には日本側で原稿を整え、編集の段階において随時、原稿の確認や修正にあたって韓国側に連絡をとって協力を要請した。

平成 31 年 2 月 10 日、国内研究会を開催し桜美林大学（四谷キャンパス）、執筆要項と編集委員会および編集計画等の確認を行い、章立てと教材の構成について検討を行った。その結果、従来のⅢ章「歴史問題を考える」という章立てを削除し、1 章「文化にふれる（を理解する）、2 章「時代別テーマ（前近代）」、3 章「時代別テーマ（近現代）」、4 章「日本と韓国を歩く」、の 4 章構成とし、教材構成は、「テーマ→学習課題→リード文」という形で統一した。

(4)《平成 31 年度》

平成 31 年 5 月 11 日に國學院大學（渋谷キャンパス）で教材案の検討を行い、5 月 31 日を原稿の最終締切とした。そして 7 月 7 日、編集委員会（於 國學院大學渋谷キャンパス）で検討し、修正意見を各執筆者に伝えて修正を依頼し、8 月 15 日を締切に、都合 36 編の原稿が集まった。この間、韓国側にもコメントをもらい、さらに原稿の修正を行った。同年 8 月 29 日・30 日に編集委員会を開催し（於 國學院大學渋谷キャンパス）、個々の教材案の課題を検討するとともに、全体調整を行い、令和元年 10 月 1 日に原稿を入稿し、令和 2 年 2 月、歴史教育研究会編『日韓歴史共通教材　調べ・考え・歩く日韓交流の歴史』を明石書店より刊行した（引用文献⑦）。

本書は、日韓両国が共有した歴史像を抽出し、それを記憶する様々な資料や解釈を紹介し、これを授業で扱う具体的な方法を例示することにつとめている。そして日韓両国の類似点や差異点に着目し、両国の歴史を相互に身近にとらえることのできる教材や、地域的な特性をとらえるためのフィールドワークを通じた活用教材などを収めている。そして、本書は日本と韓国の高校教育の現場における教材活用を想定して、より実践的な共通教材を追求したものである。

本書の主な特徴は、生徒の興味を喚起するために、日常生活にかかわる文化事象を扱い（第 1 章「文化にふれる」）、日本と韓国の生活文化における類似点や相違点に着目するとともに、日韓交流史のテーマを中心に時代の流れに合わせて構成し（第 2 章「前近代の交流をたどる」、第 3 章「近現代の交流をたどる」）、全体の教材を地域―空間的な側面（第 4 章「日本と韓国を歩く」）から相互理解を図ることができるようにした。

そして、図や表、グラフのほか、写真などビジュアル的な資料を示し、それを教育現場に適した形で再構成し、積極的に活用できるようにしたほか、日韓の歴史問題にかかわる今日的課題を取り上げ、日韓双方の高校生が相互理解を促す方向性を模索した。また、各教材の冒頭に「学習課題」を掲げ、各テーマに即して多様な「資料」を配置し、探究学習を案内する「問い」を設定している。特にこの「問い」は、「資料の読解力」や「知識･技能」「思考力･判断力･表現力等」を問うものだけでなく、「資料の価値」「自分の経験や感想」を問う課題のほか、現代的課題や未来的思考を問う課題などに及んでいる。実際の授業では、生徒たちの学習状況にあわせて、「資料」「問い」 を取捨選択し、修正して利用すれば有用なものになると考えている。

＜引用文献＞

①歴史教育研究会編『日韓国際シンポジウム　日韓共通歴史教材案　No.4　最終報告集』（2016 年 1 月）
②歴史教育研究会編『日韓国際シンポジウム　最終成果報告集』（2016 年 3 月）
③歴史教育研究会編『日韓国際シンポジウム　日韓共通歴史教材案　No.5　報告集』（2016 年 8 月）
④歴史教育研究会編『日韓国際シンポジウム　日韓共通歴史教材案　No.6　報告集』（2017 年 1 月）
⑤歴史教育研究会編『日韓国際シンポジウム　日韓共通歴史教材案　No.7　報告集』（2018 年 1 月）
⑥歴史教育研究会編『日韓国際シンポジウム　日韓共通歴史教材案　最終案　No.8』（2019 年 1 月）
⑦歴史教育研究会編『日韓歴史共通教材　調べ・考え・歩く日韓交流の歴史』（明石書店、2020 年 2 月）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計37件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 田中　暁龍	４．巻 10
２．論文標題 近世後期の公家処罰と寛政期の藪一件	５．発行年 2019年
３．雑誌名 桜美林論考　人文研究	６．最初と最後の頁 148-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 田中　暁龍	４．巻 263
２．論文標題 新刊の情報と紹介 高埜利彦編 『日本近世史研究と歴史教育』	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本史の研究	６．最初と最後の頁 49-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山﨑　雅稔	４．巻 119－1
２．論文標題 偽書『南淵書』と権藤成卿、そして朝鮮	５．発行年 2019年
３．雑誌名 國學院雑誌	６．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小瑶　史朗	４．巻 121
２．論文標題 戦後史学習の再構築に向けて－歴史教育者協議会における議論の足跡を手がかりとして－	５．発行年 2019年
３．雑誌名 弘前大学教育学部紀要	６．最初と最後の頁 29-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小松　伸之	4．巻 720
2．論文標題 世界遺産からスタート！ 社会科の魅力を伝える授業開き	5．発行年 2019年
3．雑誌名 社会科教育	6．最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小松　伸之	4．巻 24
2．論文標題 教職インターンシップの活用と教育実習事前指導への接続 －基礎的な実践的指導力の向上を目指して－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 清和研究論集	6．最初と最後の頁 69-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鈴木　哲雄	4．巻 72
2．論文標題 「アイヌのフチ・オッケニ」関係史料	5．発行年 2018年
3．雑誌名 千葉史学	6．最初と最後の頁 80-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鈴木　哲雄	4．巻 819
2．論文標題 社会科歴史教育論からみた新学習指導要領	5．発行年 2018年
3．雑誌名 歴史評論	6．最初と最後の頁 28-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鈴木　哲雄	4．巻 73
2．論文標題 社会科歴史教育論からみた新学習指導要領―小中高を通じた歴史学習の課題	5．発行年 2018年
3．雑誌名 千葉史学	6．最初と最後の頁 59-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 國分　麻里	4．巻 1
2．論文標題 福岡高等女学校卒業生の「東アジア」移動－『香蘭会誌』における同窓会活動を中心にして－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 植民地被統治民衆子弟生徒のアジア認識及び日本認識の変遷に関する総合的研究	6．最初と最後の頁 238-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 田中暁龍	4．巻 3
2．論文標題 教員養成教育と法的リテラシー育成のための教材開発　－公民科教育法における「裁判員裁判傍聴」と「模擬評議」を通して－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 教職研究	6．最初と最後の頁 81-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小瑶史朗	4．巻 119
2．論文標題 地域と世界を繋ぐ社会科学習のデザイン―3つの学習アプローチの提案―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 弘前大学教育学部紀要	6．最初と最後の頁 9-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小瑶史朗・髙瀬雅弘・篠塚明彦・小岩直人・後藤雄二・宮﨑秀一	4．巻 118
2．論文標題 教科教育と教科専門を架橋する教育実習体制の構築―弘前大学教育学部社会科教育講座における教員養成の試み―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 弘前大学教育学部紀要	6．最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小瑶史朗・佐々木篤史・池原朔也・横山裟起	4．巻 22
2．論文標題 大学院生の教科指導力の育成を意図した学校フィールド演習の試み―中学校社会科地理的分野・アフリカ州の授業開発を通して―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 クロスロード	6．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鈴木哲雄	4．巻 68－2
2．論文標題 教材「アイヌのフチ・烈婦オッケニ」―アイヌ史・アイヌ女性史の教材化―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 北海道教育大学紀要（教育科学編）	6．最初と最後の頁 275-290
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鈴木哲雄	4．巻 829
2．論文標題 書評と紹介「簗瀬大輔著『関東平野の中世－政治と環境－』」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本歴史	6．最初と最後の頁 101-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小松伸之	4．巻 36
2．論文標題 検定試験を活用した世界遺産学習の実践～社会科の学びとの接続と発展～	5．発行年 2017年
3．雑誌名 《気づき》教育実践研究会『《気づき》実践』	6．最初と最後の頁 58-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小松伸之	4．巻 3
2．論文標題 教職インターンシップ活動の充実による教職理解の深化 －教育委員会や学校との連携を通して－	5．発行年 2017年
3．雑誌名 私立大学の特色ある教職課程事例集（全国私立大学教職課程協会）	6．最初と最後の頁 71-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山﨑雅稔	4．巻 118-12
2．論文標題 新羅清海鎮の位置をめぐって	5．発行年 2017年
3．雑誌名 國學院雑誌	6．最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中　暁龍	4．巻 8
2．論文標題 近世の公家処罰 ―処罰手続きを中心に―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 桜美林論考　人文研究	6．最初と最後の頁 158-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中　暁龍	4．巻 11
2．論文標題 教員養成教育における地理歴史科とICT活用 ―GISリテラシー育成を中心に―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 桜美林大学　教職課程年報	6．最初と最後の頁 125-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中　暁龍	4．巻 27
2．論文標題 近世摂家の家臣統制と家内秩序―享保期、一条家の家内騒動と家法を中心に―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6．最初と最後の頁 32-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鈴木　哲雄	4．巻 848
2．論文標題 中世の荘園と村	5．発行年 2016年
3．雑誌名 歴史地理教育	6．最初と最後の頁 54-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林　知子	4．巻 26
2．論文標題 在日朝鮮人と日本社会－歴史と課題　朝鮮解放・分断70年を日本社会で生き抜いてきた朝鮮人の経験をどう捉えるか	5．発行年 2016年
3．雑誌名 朝鮮大学校学報	6．最初と最後の頁 55-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 小瑶　史朗	４．巻 21
２．論文標題 「花岡事件」を題材にした歴史和解のための日中合同ワークショップの成果と課題	５．発行年 2017年
３．雑誌名 クロスロード	６．最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山口　公一	４．巻 10
２．論文標題 「帝国」日本の神社政策史研究の射程－朝鮮を事例に－	５．発行年 2017年
３．雑誌名 アジア学科年報	６．最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小松　伸之	４．巻 22
２．論文標題 「総合的な学習の時間」の教材開発能力の育成に関する実践的研究 －「いのち」をテーマとした教職総合演習の実践を通して－	５．発行年 2016年
３．雑誌名 清和研究論集	６．最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小松　伸之	４．巻 34
２．論文標題 教育方法・技術論における学生のICT活用能力の向上 ～社会科の学習内容との接続を中心に～	５．発行年 2016年
３．雑誌名 《気づき》実践	６．最初と最後の頁 72-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小松　伸之	4．巻 691
2．論文標題 社会科授業で実現する！「生き方」を探究する学習 －高校における総合的な学習の時間との連携を中心に－	5．発行年 2016年
3．雑誌名 社会科教育	6．最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中　暁龍	4．巻 854
2．論文標題 近世摂家の家領と「関白料」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本歴史	6．最初と最後の頁 36-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中　暁龍	4．巻 11
2．論文標題 近世中期の京都所司代の引渡とその権限	5．発行年 2020年
3．雑誌名 桜美林論考　人文研究	6．最初と最後の頁 261 - 276
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山﨑　雅稔	4．巻 44
2．論文標題 ガムラ・ウップサーラ訪問記	5．発行年 2020年
3．雑誌名 史学研究集録	6．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鈴木哲雄	4．巻 91
2．論文標題 「大江山絵詞（酒天童子絵巻）」の詞書釈文―逸翁美術館本と陽明文庫本との比較を兼ねて―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 都留文科大学研究紀要	6．最初と最後の頁 31-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小松　伸之	4．巻 なし
2．論文標題 教科に関わる教養形成を軸とした教職カリキュラム改革	5．発行年 2019年
3．雑誌名 全国私立大学教職課程協会『私立大学の特色ある教職課程事例集Ⅳ』	6．最初と最後の頁 17-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小瑶　史朗	4．巻 123
2．論文標題 戦後史学習のコンテンツを問う―東アジアと「生存」の視座から―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 弘前大学教育学部紀要	6．最初と最後の頁 47-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計29件（うち招待講演　2件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 山﨑　雅稔
2．発表標題 七世紀の弥勒信仰の受容と造像－半跏思惟像の作例検討から－
3．学会等名 国史学会
4．発表年 2018年

１．発表者名 小松　伸之
２．発表標題 都市空間の教材化による日韓共通歴史教材の開発
３．学会等名 日本教材学会第30回研究発表大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小松　伸之
２．発表標題 世界遺産の視点を活用した社会科文化学習における『主体的・対話的で深い学び』の実践
３．学会等名 日本社会科教育学会第68回全国研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小松　伸之
２．発表標題 世界遺産を活用した日韓共通歴史教材の開発
３．学会等名 教育実践学会第26回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小林　知子
２．発表標題 「遺骨問題」から問いなおす植民地主義・南北分断
３．学会等名 ソウル市江北区近現代史記念館・民族和解協力汎国民協議会主催　近現代史記念館国際学術会議「虐殺、原爆、強制動員被害を語る　－調査現況と課題」（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 田中　暁龍・山口　公一・小林　知子・鈴木　哲雄・小松　伸之・山崎　雅稔・小瑤　史朗・國分　麻里
２．発表標題 日韓共通歴史教材
３．学会等名 第9回日韓国際シンポジウム「自国史を越えた歴史認識の共有をめざす日韓共通歴史教材の発展的研究」（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 鈴木　哲雄
２．発表標題 社会科歴史教育論からみた新学習指導要領―小中高を通じた歴史学習の課題
３．学会等名 千葉歴史学会・大会記念講演（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 田中　暁龍
２．発表標題 近世摂家の家領と「関白料」
３．学会等名 朝幕研究会例会
４．発表年 2017年

１．発表者名 山口　公一
２．発表標題 ＜書評＞加藤圭木『植民地期朝鮮の地域変容－日本の大陸進出と咸鏡北道－』（吉川弘文館、2017年）
３．学会等名 朝鮮史研究会関西部会9月例会
４．発表年 2017年

１．発表者名 鈴木　哲雄
２．発表標題 教材「アイヌのフチ・烈婦オッケニ」―アイヌ史・アイヌ女性史の教材化―
３．学会等名 北海道教育大学史学会大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 鈴木　哲雄
２．発表標題 酒呑童子絵巻と頼光四天王―坂東武士論の再構築
３．学会等名 北海道高等学校日本史教育研究大会（招待講演
４．発表年 2017年

１．発表者名 小松　伸之
２．発表標題 世界遺産の教材化による社会科文化学習における「主体的・対話的で深い学び」
３．学会等名 日本教材学会第29回研究発表大会・研究プロジェクト発表
４．発表年 2017年

１．発表者名 小松　伸之
２．発表標題 社会科文化学習における世界遺産の活用と検定試験への接続
３．学会等名 世界遺産検定第2回高校活用事例研究会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 山﨑　雅稔
２．発表標題 日本における加耶史研究
３．学会等名 韓国古代史研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 山﨑　雅稔
２．発表標題 任那日本府説と植民地支配
３．学会等名 カトリック・ルーベン大学日本学科サツマ講座 ミニシンポジウム
４．発表年 2017年

１．発表者名 山﨑　雅稔
２．発表標題 古代日本の神と仏
３．学会等名 カトリック・ルーベン大学日本学科サツマ講座
４．発表年 2018年

１．発表者名 小林　知子
２．発表標題 時務の歴史学　―同時代史研究としての朴慶植・戦後在日朝鮮人史研究
３．学会等名 在日韓人歴史資料館・朴慶植没後20周年記念シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 小松　伸之
２．発表標題 「生命倫理」に関する小中高一貫カリキュラム開発の課題
３．学会等名 日本公民教育学会・プロジェクト研究に関する公開研究会 サブグループ10「科学技術の発展と生命倫理」
４．発表年 2016年

１．発表者名 小松　伸之
２．発表標題 日韓共通歴史教材としての世界遺産
３．学会等名 日本教材学会第28回研究発表大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 小松　伸之
２．発表標題 「総合的な学習の時間指導法」を志向する「教職総合演習」の実践
３．学会等名 関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 研究部第3部会2016年度第3回研究会
４．発表年 2016年

１．発表者名 小松　伸之
２．発表標題 社会科における「生き方」の探究－総合的な学習の時間との連携を中心に－
３．学会等名 日本社会科教育学会第66回全国研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 田中　暁龍
２．発表標題 近世摂家の家臣統制と家内秩序―享保期、一条家の家内騒動と家法を中心に―
３．学会等名 朝幕研究会例会
４．発表年 2016年

１．発表者名 田中　暁龍
２．発表標題 近世朝廷の法令と公家処罰
３．学会等名 近世法史研究会
４．発表年 2016年

１．発表者名 鈴木　哲雄
２．発表標題 香取神宮の神宮寺及び供僧についての基礎的考察
３．学会等名 北海道教育大学史学会大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 小松　伸之
２．発表標題 社会科文化学習における世界遺産の教材化 ―「文化遺産としての富士山」を通して「現在とのつながり」を考える―
３．学会等名 日本教材学会第31回研究発表大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 鈴木　哲雄
２．発表標題 大山喬平・三枝暁子編『古代・中世の地域社会』を読む
３．学会等名 「ムラの戸籍簿」研究会シンポジウム
４．発表年 2019年

１．発表者名 鈴木　哲雄
２．発表標題 千葉氏と「酒天童子絵巻」
３．学会等名 関東歴史教育研究協議会／千葉県高等学校教育研究会歴史部会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計17件

１．著者名 山崎　雅稔	４．発行年 2018年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 357
３．書名 佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』	

１．著者名 山崎　雅稔	４．発行年 2018年
２．出版社 周留城出版	５．総ページ数 344
３．書名 韓国古代史学会編『伽耶史研究の現況と展望』	

1．著者名 田中　暁龍、鈴木　哲雄、國分　麻里、小林　知子、山口　公一、小松　伸之、小瑤　史朗、山崎　雅稔、具　蘭憙、黄　芝淑、趙　美暎、申　幼兒、張　翼修、金　佳妍、李　慶勲、朴　中鉉、朴　民力、阿久津　祐一、金子　勇太、金　広植、小林　悟、島田　哲弥、高柳　昌久、日高　慎、柳　準相	4．発行年 2019年
2．出版社 歴史教育研究会	5．総ページ数 235
3．書名 日韓国際シンポジウム　日韓共通歴史教材　最終案No.8	

1．著者名 江口　勇治・井田　仁康・唐木　清志・國分　麻里・村井　大介	4．発行年 2018年
2．出版社 帝国書院	5．総ページ数 304
3．書名 21世紀の教育に求められる「社会的な見方・考え方」	

1．著者名 升野　伸子・國分　麻里・金　玄辰	4．発行年 2018年
2．出版社 学文社	5．総ページ数 112
3．書名 女性の視点でつくる社会科授業	

1．著者名 森山　賢一、原田　恵理子、小松　伸之ほか	4．発行年 2017年
2．出版社 大学教育出版	5．総ページ数 200
3．書名 教育実践学－実践を支える理論－	

1．著者名 田中　暁龍、鈴木　哲雄、國分　麻里、小林　知子、山口　公一、小松　伸之、小瑤　史朗、山崎　雅稔、具　蘭憙、黄　芝淑、趙　美暎、申　幼兒、張　翼修、金　佳妍、李　慶勲、朴　中鉉、朴　民力、阿久津　祐一、金子　勇太、金　広植、小林　悟、島田　哲弥、高柳　昌久、日高　慎、柳　準相	4．発行年 2018年
2．出版社 歴史教育研究会	5．総ページ数 227
3．書名 日韓国際シンポジウム　　日韓共通歴史教材案　No.7　報告集（平成28年度 科学研究費助成事業（基盤研究（B））「自国史を越えた歴史認識の共有をめざす日韓共通歴史教材の発展的研究」）	

1．著者名 田中　暁龍、鈴木　哲雄、國分　麻里、小林　知子、山口　公一、小松　伸之、小瑤　史朗、山崎　雅稔、具　蘭憙、黄　芝淑、趙　美暎、申　幼兒、張　翼修、金　佳妍、李　慶勲、朴　中鉉、朴　民力、阿久津　祐一、金子　勇太、金　広植、小林　悟、島田　哲弥、高柳　昌久、日高　慎、柳　準相	4．発行年 2017年
2．出版社 歴史教育研究会	5．総ページ数 462
3．書名 日韓国際シンポジウム　　日韓共通歴史教材案　No.6　報告集（平成28年度 科学研究費助成事業（基盤研究（B））「自国史を越えた歴史認識の共有をめざす日韓共通歴史教材の発展的研究」）	

1．著者名 田中　暁龍、鈴木　哲雄、國分　麻里、小林　知子、山口　公一、小松　伸之、小瑤　史朗、山崎　雅稔、具　蘭憙、黄　芝淑、趙　美暎、申　幼兒、張　翼修、金　佳妍、李　慶勲、朴　中鉉、朴　民力、阿久津　祐一、金子　勇太、金　広植、小林　悟、島田　哲弥、高柳　昌久、日高　慎、柳　準相	4．発行年 2016年
2．出版社 歴史教育研究会	5．総ページ数 494
3．書名 日韓国際シンポジウム　　日韓共通歴史教材案　No.5　報告集（平成28年度 科学研究費助成事業（基盤研究（B））「自国史を越えた歴史認識の共有をめざす日韓共通歴史教材の発展的研究」）	

1．著者名 鈴木　哲雄	4．発行年 2017年
2．出版社 岩田書院	5．総ページ数 365
3．書名 社会科歴史教育	

1．著者名 國分　麻里・坂井　俊樹・小瑶　史朗・鈴木　隆弘・金子　真理子・井山　貴代・石本　貞衡・堀口　博史・竹内　裕一・板垣　雅則・熊井戸　綾香・吉岡　大輔・中妻　雅彦・窪　直樹・内藤　圭太・田代　憲一・上園　悦史・飯塚　真吾	4．発行年 2017年
2．出版社 学文社	5．総ページ数 185（107～116、127-136）
3．書名 18歳までに育てたい力－社会科で育む「政治的教養」	

1．著者名 山口　公一・米澤　清恵共訳	4．発行年 2016年
2．出版社 日本評論社	5．総ページ数 421（227～250）
3．書名 「徐勇「日本の拡張主義と安重根の東洋平和論」『安重根と東洋平和論』	

1．著者名 田中　暁龍・高埜　利彦・平井　誠二・山口　和夫・久保　貴子・千葉　拓真・浅井　良亮・西村　慎太郎・林　大樹・藤實　久美子・松澤　克行・佐藤　雄介・松田　敬之・井上　智勝・近藤　絢音・石井　秀和・間瀬　久美子・梅田　千尋・村　和明・渡辺　修	4．発行年 2019年
2．出版社 岩田書院	5．総ページ数 521
3．書名 論集　近世の天皇と朝廷	

1．著者名 田中　暁龍、鈴木　哲雄、國分　麻里、小林　知子、山口　公一、小松　伸之、小瑤　史朗、山崎　雅稔、具　蘭憙、黄　芝淑、趙　美暎、申　幼兒、張　翼修、金　佳妍、李　慶勲、朴　中鉉、朴　民力、阿久津　祐一、金子　勇太、金　広植、小林　悟、島田　哲弥、高柳　昌久、日高　慎、柳　準相	4．発行年 2020年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 280
3．書名 日韓歴史共通教材　調べ・考え・歩く日韓交流の歴史	

1．著者名 南　相九（小林　知子訳）	4．発行年 2019年
2．出版社 同時代史学会（ハーバード・エンチン研究所助成）	5．総ページ数 200
3．書名 国際シンポジウム　1945年以後の北東アジア史をどうみるか　ー冷戦後を見据えてー	

1．著者名 小松　伸之・唐木　清志・栗原　久ほか46名	4．発行年 2019年
2．出版社 第一学習社	5．総ページ数 255
3．書名 新版テキストブック公民教育	

1．著者名 鈴木　哲雄	4．発行年 2019年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 272
3．書名 酒天童子絵巻の謎―「大江山絵詞」と坂東武士	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小林　知子 (Tomoko KOBAYASHI) (10325433)	福岡教育大学・教育学部・教授 (17101)	
研究分担者	國分　麻里 (Mari KOKUBU) (10566003)	筑波大学・人間系・准教授 (12102)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	鈴木　哲雄 (Tetsuo SUZUKI) (20374746)	都留文科大学・教養学部・教授 (23501)	
研究分担者	山口　公一 (Kouichi YAMAGUCHI) (20447585)	追手門学院大学・経済学部・教授 (34415)	
研究分担者	山崎　雅稔 (Masatoshi YAMASAKI) (40459392)	國學院大學・文学部・准教授 (32614)	
研究分担者	小瑶　史朗 (Fumiaki KODAMA) (50574331)	弘前大学・教育学部・教授 (11101)	
研究分担者	小松　伸之 (Nobiyuki KOMATSU) (80609777)	清和大学・法学部・准教授 (32522)	